

平成 17 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 7	学校名	県立水戸高等養護学校						課程	全日制				学校長名	吉川 厚三			
教 頭 名	平野 信亮												事務(室)長名	鈴木 孝行				
教職員数	教 諭	44	寄宿舍 指導員	19	養護 教諭	2	常勤 講師	7	非常勤 講師	1	実習教諭, 実習 講師, 実習助手	2	事務職員	4	技術職員等	10	計	89
生徒数	学 部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合 計		合計クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	高等部(産業科)	31	17	32	16	34	14	/	/	/	/	/	/	97	47	18		

2 目指す学校像

1 学校経営の基本姿勢

- (1) 地域における特別支援教育の中核的機関としての機能を有する「地域に開かれた学校づくり」の推進
- (2) 心の教育(豊かな心・道徳性)の推進
- (3) 学校評価システムの導入を図り, 一人一人の個性を生かす教育の推進

2 具体的経営方針

- (1) 学校評価システムを推進し, 教育目標の具現化を目指した学校経営に努める。
- (2) 地域の特別支援学校としての機能を発揮し, 家庭, 地域, 関係機関等との連携を密にするとともに, 将来の社会・職業生活につながる教育を推進する。
- (3) ノーマライゼーションの理念に立った教育を推進し, 人格的な交流の中で教育が行われるようにする。
- (4) 生徒理解に立った周到な教育行動計画(教育実践システム)に基づく教育実践プランを作成し, 一人一人の良さを大切にする教育を推進する。
- (5) 校務分掌を通じて経営に参画し, 的確で能率的な校務処理と責任・協力体制の確立を図る。
- (6) 教育職員としての品位と責任を重んじ, 特別支援教育に関する専門性の向上を図るとともに, 創意と工夫に満ちた教育活動を実践する。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題								
学習活動	<p><教育課程>各教科（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・職業・家庭・英語）道徳，特別活動，自立活動，総合的な学習の時間各教科・領域について体験的に学習できるように編成し，教育活動全体を通して将来の社会自立・職業自立に必要な知識・技能・態度の育成を図るために，職業教育に関する教科の指導を中核に指導している。</p> <p>各教科等の指導に当たっては，生徒一人一人の実態に応じた目標に沿った活動を展開するとともに，生活に結び付いた学習の場とし，実際の生活に生かすことができるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活自立に必要な生活技術の向上に向けた指導内容・方法等について常に検討しながら指導を進める。 一人一人の生徒の実態を的確に把握するとともに，社会・職業自立を図っていくための個別の指導計画を作成し，一人一人に応じた適切な指導に当たる。 個別の指導計画の有効活用とともに個別の教育支援計画を策定し，保護者，生徒，関係諸機関との共通理解を図る。 								
進路指導	<p>保護者や企業，職業安定所，福祉関係機関等との連携を密にし，全校挙げて職場開拓を行う等，就労・生活支援の充実に努めている。</p> <p>外部の職業ガイダンスを積極的に受け入れ，生徒，保護者の就労に対する意識を高めている。</p> <p><平成16年度卒業生の進路状況（6月1日現在）></p> <table border="0" data-bbox="448 845 1164 1005"> <tr> <td>卒業生48名：就職決定者</td> <td>34名（70.8%）</td> </tr> <tr> <td>未就職者</td> <td>4名（8.3%）</td> </tr> <tr> <td>専門学校進学者</td> <td>4名（8.3%）</td> </tr> <tr> <td>施設入所</td> <td>6名（12.5%）</td> </tr> </table>	卒業生48名：就職決定者	34名（70.8%）	未就職者	4名（8.3%）	専門学校進学者	4名（8.3%）	施設入所	6名（12.5%）	<ul style="list-style-type: none"> 個別移行支援計画の有効的な活用方法について，さらに検討を進める。 生徒が社会の中で自分の力をより発揮し，自立していくための効果的な支援の在り方について探る。 現状の就業率の維持に努める。 ジョブコーチ支援の活用，職業評価・現場実習の評価の有効活用を図る。 就労支援ネットワークの役割と卒業後の生活支援の在り方を探る。
卒業生48名：就職決定者	34名（70.8%）									
未就職者	4名（8.3%）									
専門学校進学者	4名（8.3%）									
施設入所	6名（12.5%）									
生徒支援	<p>在校生を対象にした教育相談支援体制の充実に努めるために，校務分掌組織の再編成を行い，（生徒支援部の中に教育相談係を設けた）支援チームを編成し，担任や保護者をサポートするとともに生徒の心のケアに当たっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の問題や課題の状況を的確に把握して，有効な支援活動を進めるための支援チームと担任，関係機関との連携の在り方についてさらに検討を進める。 生徒一人一人の的確な情報を得るため，中学校等との連携の在り方について検討する。 								
特別活動	<p>ホームルーム活動，進路学習，生徒会活動，学校行事等を通して，生徒一人一人が学校生活の充実や改善・向上を図り，青年期にふさわしい生活態度で主体的な活動ができるよう努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動等の実践により，豊かな心，道徳性を養い，健全な生活態度の育成を図る。 学校行事等を通して，公共心，マナー等，集団活動，社会生活に必要な基本的行動様式を身に付ける。 								

4 中期的目標

- 1 保護者や地域の企業，職業安定所，福祉関係機関等との連携を密にし，全校挙げて積極的に職場開拓を行い，就労・生活支援の充実に努める。
- 2 「地域支援相談推進センター」の機能の充実に図り，地域における特別支援教育のセンターとしての役割を積極的に果たすとともに，障害者に対する地域の人々の理解啓発に努める。
- 3 全生徒加入による部活動の充実に図り，生涯スポーツ・文化活動等，生徒の余暇活動の拡充に努める。
- 4 民間人を積極的に活用し，職業に関する専門的な技術の習得と社会・職業自立を促す教科学習に関する指導内容・方法の改善に努める。
- 5 学校評価システムの積極的な推進を図り，P D C A サイクルを導入し，学校内外における教育活動その他の学校運営の状況に応じた効果的な学校評価の実践に努める。

5 本年度の重点目標

重点目標	具体的目標	達成状況
生徒理解に立った周到な教育行動計画（教育実践システム）に基づく教育実践プランを作成し，一人一人の良さを大切に教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズを的確にとらえ，個別の指導計画を作成・運用するとともに個別の教育支援計画を策定し，生徒・保護者の思いや願いを大切に支援に努める。 ・改訂した各教科の基礎的指導内容表を基に社会生活を営む基礎的な力をつけるための実践的な指導に当たる。 	
地域支援相談推進センターの機能の充実に図り，地域における特別支援教育センターとしての役割を積極的に果たす。	<ul style="list-style-type: none"> ・本校特別支援教育コーディネータが中心となり，水戸市城東地区，常澄地区の小学校10校，中学校3校の児童生徒・保護者・担当教員等への支援を積極的に実施する。 	
保護者，地域の企業，職業安定所等との連携を強化して，職場開拓・就労支援に当たる。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の出席率を上げ，保護者等と協働して生徒への的確な支援に当たる。（平成16年度平均出席率 1年 83%，2年 64%，3年 62%） ・地域の企業，職業安定所等と連絡を密にし，生徒一人一人に応じた職場開拓，就労支援を積極的に展開する。 	
学校内外における教育活動及び学校運営等の改善のため，学校評価システムの積極的な推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の学校評価項目に「保健安全に関する指導」「地域住民による本校教育活動等に関する評価」を加え，学校評価システムの改善に努める。 	

